

植物  
防疫  
講座

虫害編-25  
ハナバエ科野菜害虫

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 中央農業試験場 いわ岩 さき崎 あけ暁 お生

はじめに

タネバエ、タマネギバエ等ハナバエ科に属する農業害虫は、国内ではこれら2種にダイコンバエ、ヒメダイコンバエ、ハコベハナバエを加えた *Delia* 属の5種と *Pegomya* 属のアカザモグリハナバエ、テンサイモグリハナバエ、ジャガイモモグリハナバエ（日本応用動物昆虫学会, 2006）、ヒメモグリハナバエ（北海道病害虫防除所, 2009）の4種を加えた9種が記録されている（表-1）。ハナバエ類に対して登録がある防除薬剤は限られ、タネバエ、タマネギバエ、テンサイにおけるテンサイモグリハナバエを除く種については、防除に際しての選択肢はそれほど多くはない。そのため本稿では、これらのうち主要な7種について、同じ作物を加害する種間の識別点、これまでに判明している発生生態や被害作物を主体に、防除対策上の要点などについて紹介する。

I 被害作物, 被害症状

1 タネバエ

タネバエは、広範な作物を加害する。ダイズ、アズキ、インゲンマメ等の豆類、トウモロコシ、ホウレンソウ、ウリ科作物等では、発芽前の種子や生育初期の胚軸部等を加害して欠株にさせたり、子葉や初生葉に対する加害により初期生育を阻害したりする（図-1~4）。また、キャベツ、ハクサイ、ホウレンソウ等の葉菜類では、発芽・定植後の苗の根や胚軸、まれには生長点付近を食害して株を枯死させたりする（図-7, 9~10, 19）。さらに、ハクサイの結球部に食入して商品価値を損ねることもある（図-8）。ダイコンでは、播種後20日程度経過した以降の根に幼虫が食入して孔を開けたり（図-12~13）、根の表面を溝状に食害する（図-14）。根に見られる食入孔は、収穫直前に食入した場合は幼虫の体幅に近い2mm程度で、早期に食入した場合は、以後収穫までの期間の根の肥大に伴い開口部の広い漏斗状を呈する（図-12）。ネギやタマネギでは、近縁のタマネギバエ（図-5）と同

表-1 農作物を加害するハナバエ科害虫

種名	学名	被害作物				
		マメ類	ネギ類	アブラナ科 野菜	ホウレン ソウ	ジャガイモ
タネバエ	<i>Delia platura</i> (Meigen)	○ <sup>1)</sup>	○	○	○ <sup>1)</sup>	
タマネギバエ	<i>Delia antiqua</i> (Meigen)		○			
ダイコンバエ	<i>Delia floralis</i> (Fallén)			○		
ヒメダイコンバエ	<i>Delia planipalpis</i> (Stein)			○		
ハコベハナバエ	<i>Delia echinata</i> (Séguy)				○ <sup>2)</sup>	
アカザモグリハナバエ	<i>Pegomya exilis</i> (Meigen)				○ <sup>2)</sup>	
テンサイモグリハナバエ	<i>Pegomya cunicularia</i> (Rondani)				○ <sup>2)</sup>	
ヒメモグリハナバエ	<i>Pegomya flavifrons</i> (Walker)				○ <sup>2)</sup>	
ジャガイモモグリハナバエ	<i>Pegomya dulcamarae</i> Wood					○ <sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 発芽時, <sup>2)</sup> 潜葉.